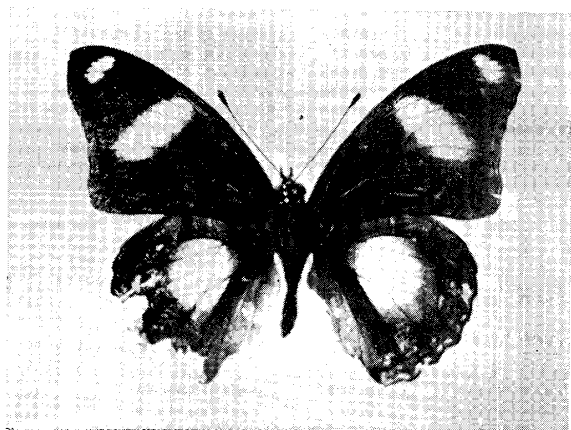
データ下記の通り。

神奈川県逗子市披露山，1♂，1965年9月19日（快晴無風），森下明彦採集。

逗子披露山丘陵で採集メスアカムラサキ，♂

石川県で採れた蝶3種

武藤 明[1)]

1．スギタニルリシジミ *Celastrina sugitanii sugitanii* Matsumura

本種は石川県からは発見されていなかったが，1962年5月25日，白山の六万山で2頭が亀井重郎，林靖彦両氏によって採集された。2頭ともかなり飛び古した個体なので，白山山麓での発生は5月上～中旬頃と推定さる。本種の同定を確認して頂いた白水隆博士に謝意を表する。

2．クロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* Matsumura

能登半島の鹿島町芹川で，1964年8月30日本種の1♀が尾田良知氏によって捕えられた。氏によれば自宅の庭のサクラの根際に止っていた由である。この個体は前翅端の2白斑のうち，下方のものは消失し，上方の斑も発達がわるいが，比較的新鮮である。本種は中部以北の日本海側では発見されておらず，能登での定着の可能性は少いであろう。

3．アオタテハモドキ *Precis orithya* Linnaeus

本種も中部以北の裏日本では未記録と思われるが，やはり能登半島で採集された。すなわち1965年8月29日，額田豪郎氏は本種1♂を能登小木駅前の花壇で手づかみにし，翌日筆者の許へ持参された。典型的な偶産記録であり，8月下旬の台風により漂来したものかも知れない。

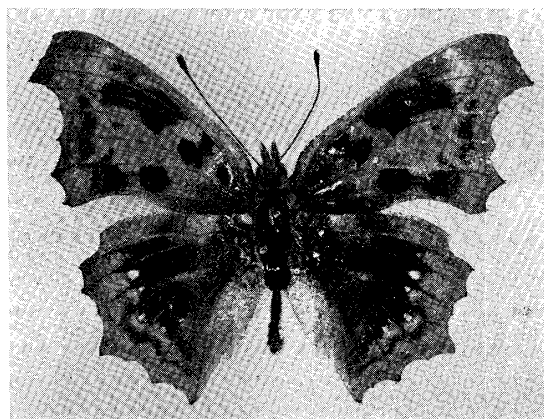
1）金沢市石引2丁目 3-22

キタテハ *Polygonia c-aureum* の黒化型を採集

原田基弘[2)]

写真に見られるような，キタテハ *Polygonia c-aureum* Linnaeus の一異常型を発見（友人のストックより）したので．誌上をお借りしてここに発表させて戴きます。秋型の♂で，斑紋の黒化が著しい。形や大きさは，ほとんど正常のものと変らない。

採 集 者： 横山英輔
採集月日： 1958年10月2日（晴）
採 集 地： 横浜市港北区篠原町の横山氏宅の庭

同氏の話では腐熟して落ちた柿に飛来したものだという。なお快く標本を護与された横山氏には深く感謝します。

キタテハの異常型

神戸市のミヤマカラスアゲハ

高崎寿郎[3)]

兵庫県下でのミヤマカラスアゲハの産地は大体中央背梁山脈地帯に知られているが，神戸市内での記録は大変珍しい。神戸市内での記録は1956年6月8日，摩

2）横浜市港北区篠原町 313
3）神戸市兵庫区氷室町1丁目 44

耶山上で吉阪道雄氏が採集された記録（兵庫生物，Ⅲ 4，p.234，1958），と和田岬の神戸検疫所官舎で採集された人見勝氏の記録（1♂，11-IX-1963，1♂，29-IX-1963，蝶と蛾，XV，1，p. 26，1964）があるのを知るのみである。筆者は自宅よりすぐそば（約200m 離れた所）の兵庫区氷室町烏原貯水池登山口で飛翔中の完全なる1♀（19-IX-1965，A.M.11.30）を採集出来たので此処に記録しておく。

ちなみにこの烏原貯水池附近は有名なキベリハムシを多く産する地として知られているが，30年来採集していてミヤマカラスアゲハは始めての採集である（カラスアゲハはかなり産する）。最近ではモンキアゲハやラミーカミキリが多く戦前に比べて南方系のものが多くなって来たような気がしているので，はたして本種がこの辺に土着しているのか迷って来たものか，暫く注意して調査する必要があると考えている。（3-XI-1965）

投稿注意

1）和文の場合，術語以外は原則として「当用漢字」「新かなづかい」を使用して下さい。例えば次の文字は「ひらがな」で書く。此，之，其，夫々，事，或は，様な，及び，先ず，即ち，但し，主に，然し併し，所謂，尚，稍，唯，又，亦，丈，等，迄，云う，依る，出来る，於いて，就いて。これらの問題の参考書としては，〝白石大二編，当用漢字，送りがな，筆順，例解辞典（帝国地方行政学会発行，480円）〟をおすすめします。

2）短報の場合は欧文副題は必ずしもつけることを要求しません（つける，つけぬは投稿者の自由とします）。

3）写真（図版），凸版付図などは，そのまますぐに印刷所に渡せるように著者で整理して御送付下さい。例えば数枚の写真あるいは付図を組にするときには正しくはりこみを行ない，付号の必要なものは付号のはりこみ（または書きこみ）をして下さい。著者でそれらができぬときは編集者に御相談下されば適当な方法を考えます。

4）別刷は50部を単位とします。原稿の第1頁目右上欄に所要別刷部数および表紙をつけることの希望の有無を記入して下さい。別刷ができあがりますと，直接に印刷所より著者に実費の請求書が発送されます。著者が代金を印刷所に支払いますと，印刷所より別刷が送付されます。

例えば

別刷50部 表紙なし

別刷100部 表紙つき

（**編集後記**）編集所，編集幹事の変更，それに印刷所の変更なども重つて，本誌の発行が非常におくれましたが，やっと Vol.17, No. 1&2 を発行する段取りとなりました。次の Vol. 17, No.3 & 4 はすでに組版，校正が進行しておりますので，これも約2カ月後（4月下旬頃）に発行の予定です。今後はすべての準備が整いましたので，会誌の発行は順調に行くことと思います。Vol. 17, No.3 & 4 で今までにたまった原稿は一掃されましたので，Vol. 18 のための会員各位の御投稿をお待ちしております。とくに短報を観迎します。

（白水　隆）

日本鱗翅学会会報 “蝶と蛾”
第17巻 第1・2号
日本鱗翅学会発行

本部　大阪市東区今橋3丁目18　緒方病院内
振替口座　京都15914番　電話大阪(231)3255代
編集者　白水　隆（福岡市六本松4丁目 九大教養部生物学教室）
印刷所　西日本綜合印刷株式会社
1967年2月25日発行

TYŌ TO GA
(Trans. Lep. Soc. Jap.)
Vol. 17, No. 1 & 2
published by
The Lepidopterological Society of Japan
c/o OGATA HOSPITAL, Imabashi 3-18,
Higashiku, Osaka, Japan.
25 February 1967